

すぎなさん



三宅小学校同窓会 会報誌

三宅小学校全校児童数 97名（男47名 女50名）平成30年3月15日現在

平成30年3月15日発行

第13号

ご挨拶 三宅小学校同窓会長 田中 信太郎（第52回 昭和36年卒 日笠区）



同窓会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。常日頃から同窓会活動に対し深いご理解と温かいご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。この度、三宅小学校同窓会会長を拝命いたしました。何分浅学非才の身ゆえ十分なことはできませんが、三宅小学校と同窓会の発展のために微力をつくしてまいりたいと思っておりますので、皆様のご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、昨今の私たちを取り巻く環境を見ますと、北朝鮮をめぐる国際的な緊張、社会経済の複雑多様化、国際化、IT・IoTの普及などに伴い人々の価値観も多様化し、すまぬ混沌として分かりにくい世の中になっていること、皆様も実感しておられるのではないのでしょうか。

いま、全国的に急速に進んでいる少子高齢化は、国難という表現がふさわしいかどうかは別として、喫緊の大きな課題であることには間違いありません。現在の三宅小学校の児童数は97名、私が卒業した昭和36年当時が230余名であったということですから改めて他所のことではないなとこれを実感しているところです。このような観点から、授業参観や運動会・三世代交流まつりをはじめとする地域の各種行事に参加させていただいて現状を拝見しますと、先生方と児童との濃密な関係、目の届いた授業、地域社会とのかかわりなど良好な状況にあると感じます。辻本前会長がおっしゃる「少子化＝マイナスにあらず」が当たっていることを実感し、今後もますますいい方向に展開・拡充していくものと確信・期待しております。この会報誌「すぎなさん」の由来となった水源の清冽な水、赤い水苔、優しい水音には同窓生の皆様の脈々とした共通の思いがあります。同窓会といたしましてはこの思いを大切に、地域社会の皆様のご協力の下、子供たちの健やかな成長を願い、先生方や保護者の皆様とともに取り組んでまいりたい所存でございますのでよろしくお願い申し上げます。

郷土を愛し、未来を切り拓く

三宅小学校長 清水 博之



同窓会の皆様には益々ご健勝でご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年10月に若狭町陸上記録会が7年ぶりに本校グラウンドで実施されました。町内の5・6年生270余名が集う中、本校の子ども達は日頃の練習の成果を十二分に発揮し、全リレー種目優勝等、見事な活躍をしてくれました。伝統の赤はちまきが秋風に誇らしげになびく一日となりました。

また、11月実施の三世代交流まつりでは、保護者、地域の方々の絶大なるご支援を受け、多くの方々に来校いただき、合唱やクラブの発表、伝承遊び、もち米・野菜販売等、生き活きと交流を深めることができました。

平素より「地域コミュニティの拠点としての学校」「子どもは地域の宝物」という共通認識のもと、家庭、地域の皆様方の温かいご理解、ご支援を賜り学校経営できますこと、心よりお礼申し上げます。今後とも「郷土の自然、歴史・文化を愛し、夢と希望を持って未来を切り拓く三宅の子の育成」に全力を尽くしていきたいと思っております。

同窓会の皆様には、変わらぬご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

同窓会便り

水清ければ人清し

第40回（昭和24年卒）田中 甚四郎（日笠区）

私が三宅小学校へお世話になったのは、大戦末期の頃、世に言う疎開が大量に始まった春の頃だった。日笠から学校までの距離は約一里、これまで通っていた大阪の稲荷小学校は自宅の目の前であったので、その差の大きさにびっくりしたものだ。しかし、村や友達に恵まれ仲良く親切に指導してもらい、三宅小学校が嫌だと思ったことは一度もなかった。中でも隣の三兄弟には、公私共に指導を仰ぎ、今思っても感謝あるのみである。三宅小学校へ通って数日たってから友人が連れて行ってくれたのが、これ「すぎなさん」て言うんやでと言われ、清水がこんこんと湧くを見て、少年の胸はときめき感動を覚えた。

登校は集団であり、下校は自由であった。自分達は天徳寺から北川の土手道から帰ったものだ。これにはいろいろ楽しみがあったのだ。冬は雪の上を歩き、春は鉄道ぞいを草の若芽を食べて歩いた。夏は天徳寺、神谷の農家が作られた、スイカやトマト、瓜などを「もらい食い」をした。秋は果実が道中にいくらかでもあり、石を投げて落として食べたものだ。神谷の三右エ門の石碑の、つつじの花もうまかった。天徳寺河原の桑の実は格別の旨さだったと思う。

さて、学校内に話を戻そう。①購買が出来たこと。②給食が出るようになったこと。これは田谷先生のおつらえであり、粉ミルクを含め、生徒の健康に役立ったのではないかと③田中明子先生は物静かで熱心に教えてくれました。④古谷校長は達筆をもって、学校の方向性を示す大字を講堂の上部に掲げ、そのやる気は敬意に値する。⑤垣本先生は主に体育事業に力を注がれていた気がする。

最後になったが、私たちは三宅小学校四十代卒業生であったことを含め「よんまる会」なるものを結成し、毎年の如く集会を催している。三宅小学校に思いを馳せた者ども同志の集いは、なかなかよいものである。

“清水清人” 水清ければ人清し



【昭和初期の三宅小学校】

「昔、懐かし」鑑賞会

第73回（昭和57年卒） 勢馬 正浩（市場区）

今年、私は区の自主学級長（文化部長）をする事となり、その主たる仕事は納涼祭懇親会時の催し物を企画する事です。だいたい例年は歌手や芸人さん等に来ていただいているのですが、他に何かないかと思い、今年は昔の風景写真等をスライドにして観てもらおうという事を企画しました。理由はいくつかあります。市場は十数軒ほどしかなかったそうですが、今は六十軒くらいまで増えていて昔の事は知らない人が多い点や、ずっと住んでいる人でも懐かしく感じてくれるだろうという点です。

それから写真等のデータを探すうちに器材共に三宅公民館にあると聞いて全てお借りしました。もちろん白黒ですが、駅前通り鳥瞰図、役場、農協、郵便局、三宅小学校の写真があり映

像化して放映しました。自分自身も最初は半信半疑でしたが結構反響があったように思います。いい経験をさせていただきました。



【昭和38年三宅小学校の運動会】

素晴らしい！三宅小の伝統

第74回（昭和58年卒）中井 崇視（市場区）

私が母校三宅小を卒業して数十年、また私の子供たちが卒業して数年、最近では三宅地区の体育大会や、たまにアルミ缶を持っていく時にしか学校には用がなくなりました。しかし、なぜか三宅小には校舎や構内に足を踏み入れなくても親近感がわいてくるのです。

自分の卒業した母校であるからだと言われるかもしれませんが、私の中で理由がはっきりとしております。それは『あいさつ』です。私が児童のころは通学路に「あいさつ道路」と書かれた看板が設置されていて、通学・下校時に会う大人の人に照れながらあいさつをした記憶があります。当時のPTAも含めた活動であったかはわかりませんが、三宅地区には鯖街道も通り道沿いに多くの民家が有り、それがほぼ通学路となっているため自然と地域の人達と顔を合わす機会に恵まれていたんだと考えております。これは他の校区にはあまり見られない状況ですが、三宅の子の何せ『おはようございま

す』『こんにちは』『さようなら』が無理やり感なく自然と声になって出てきます。

私は職業がら道路沿いで作業をすることが多いのですが、三宅小の子供たちにあいさつをされ、こちらからあいさつを返すとその後大変気持ちよく仕事出来る体験を何度も味わっております。某小浜あたりでは十数人の子供たちが誰一人あいさつをしないことがよくありますし、こちらからしても知らない人に掛けられたみたいな顔をされます。たかが『あいさつ』ですが、するしないで雲泥の差が出来てしまうのです。

私がこの「すぎなさん」の中で書かなくても三宅の校区には子供たちのあいさつの素晴らしさを感じていらっしゃる方も多くおられると思います。『あいさつ』だけが三宅小の伝統ではありませんが、当たり前なのが自然とできる子供たち、そしてそれを育む三宅小校区の地域に私は誇りを感じます。



【元気よく登校する子どもたち（児童民生委員さんによる挨拶運動）】



【三世代交流まつり】2017. 11. 25

学校と保護者・地域とが連携して、学校の子もたちと父母、祖父母、地域の方々とは、昔遊びや工作などのいろいろな体験を通して交流を行いました。



【せりかなさんコンサート】2018. 2. 3

土曜学級で福井県出身のシンガーソングライター“せりかな”さんを学校に招き、ミニコンサートを開催しました。生で聴く“せりかな”さんの美しい歌声と迫力に子どもたちみんなが魅了されました。

時代の流れ

第60回（昭和44年卒） 村上 博昭（日笠区）

三宅小学校を卒業して48年、還暦を過ぎ過去の記憶も相当薄れました。昨年、還暦記念の同窓会が開催されましたが、残念ながら所用で参加出来ず、皆の顔の遍歴を見ることができませんでした。

私自身、中学卒業後学校・仕事の関係で地元を離れている期間が長かった為、小学校時代の面々とは会うことが少なく、たぶん会っても顔を思い出せない事が想像されます(笑)。出席者から20名弱の参加があったと聞きました。

今、三宅小学校の全児童数が97名、1学年当たり16名程度となり、今回の同窓会の参加者にも及ばない人数となります。今後、過疎化・少子

化の流れから益々児童数は減るでしょう。若狭町ではまだ学校の統合は行われていませんが、近隣の市町では学校の統合が進んでいます。

我が母校、三宅小学校もいずれ統合の時期を迎え、無くなることも考えられます。時代の流れと言えは仕方ありませんが、若者が都会に出ることを無理に止めることは出来ません。出来るだけ仕事場を増やし魅力ある地域づくりをしていくことが求められます。住み易い地域づくりが学校の存続に結び付くと思います。出来るだけ長く残ってほしいものです。

三宅小学校 同窓会費 決算報告

収入の部

項目	金額(円)	備考
前年度繰越	377	
会費	123,300	300円×411人
入会金	9,000	500円×18人
貯金利息	0	
計	132,677	

支出の部

項目	金額(円)	備考
事務費	5,364	切手・封筒
会議費	1,176	お茶
同窓会会報誌	72,360	印刷費
維持管理費	50,000	芝生管理
同窓会事業基金	3,000	積立
計	131,900	



【芝生広場でゲートボールを楽しむ子どもたち】
同窓会費の一部は学校の芝生広場の管理に使わせていただいています。芝生広場は、子どもたちが遊んだりクラブ活動でゲートボールを行ったりしています。

差引残高 132,677 - 131,900 = 777

※ 777円は、次年度の会計に繰り越させていただきます。

編集後記

ここに皆様の母校への思いがこもった「すぎなさん第13号」が完成いたしました。この発行を通して旧交を温めていただけましたら幸いに存じます。最後になりましたが、今後益々の同窓会員皆様方の御健勝をお祈り申し上げます。

平成29年度

三宅小学校同窓会 会報誌編集委員

村上 博昭（日笠区理事 第60回卒）
田中 輝久（日笠区理事 第66回卒）
勢馬 正浩（市場区理事 第73回卒）
中井 崇視（市場区理事 第74回卒）
島田 正樹・谷口 文代（同窓会幹事）

同窓会会報誌は、三宅小学校ホームページでも配信しています。

<http://edu.town.wakasa.fukui.jp/s-miyake/>

同窓会事務局 住所

〒919-1542

福井県三方上中郡若狭町井ノ口49-11

三宅小学校内

電話 : 0770-62-0005

FAX : 0770-62-0038

電子メール : miyake-es@edu.town.wakasa.fukui.jp